

小学6年1組 家庭科学習指導案

指導者 竹 吉 昭 人

衣服の働きやその手入れの方法について、日常生活での衣服とのかかわりを見つめ直しながら調べたり実習をしたりすることは、快適な着方を工夫し考える力を育むことに有効であったか。

1 題材名 快適な着方を考えよう

2 授業の構想

今日はハムを買いに行きました。4班のみんなは、原材料とか賞味期限とか見てすごい！と思いました。私の班は裏返しにせずに、値段と量を見ただけだったので、次、気をつけるのと、お母さんに聞いて勉強したいです。

(1) 上のふりかえりは、6年「上手な買い物の仕方を考えよう」の学習において、自らの買い物の仕方をふりかえりながら学級全体で学び合った時のものである。学び合いを通して、友だちの意見を受けて、改めて自分の課題を明確にもつことができた。また、その解決のための手段として、お母さんに聞くなど自らの家庭に目を向けている。小学校家庭科の学習では、学級全体で学び合う中で、自分にはなかった視点に気づき、考え、自らの家庭生活につなげていくこのような学び合いの姿をめざしている。

子どもたちは6年生になり、女子を中心にファッションへの興味も高まってきている。日記などからも「新しい服を買ったので着るのが楽しみです」といった記述もよく見られ、購入場面を主として子どもたちの日常生活における衣服へのかかわりが増えてきている。しかし、子どもたちの興味は衣服の色や形などデザインを中心とした興味であり、衣生活にかかわる多くの場面ではまだ大人まかせの部分が多い。特に子どもたちの普段着の選択においては、お気に入りかどうかが一番重要であり、一日の天候や、何をして過ごすかなど、気候と活動に応じた選択を自分自身で行っているとは言い難い。また、普段の洗たくを中心とした衣服の手入れについても、干す・たたむ・しまう場面については積極的に手伝っている子どももいるものの、汚れを点検する・洗う・すすぐ・しぼるといった場面にはかかわりが少ない。よって、毎日家庭で行われている洗たくについても、洗たく機に洗たく物と洗剤をいれてスイッチを押すこと以外に詳しいことを知らない児童がほとんどである。

衣服をデザインで選ぶことも一つの選択基準であるが、気候や活動に応じた衣服の着方を考えたり、衣服の保健衛生的な役割を考え選べるようになってきたりすること、さらに、衣服の手入れの仕方を知り、日常生活へ活かす知識や技能を身につけることは、子どもたちの衣服とのかかわりを充実させ、家庭生活をより豊かにするものであると考える。

(2) 本題材では、衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること、さらに日常着の手入れの必要性に気づき、洗たくをできるようにすることをねらいとしている。そのために、日頃の衣生活をふりかえり、衣服の働きや快適な着方の工夫を考え、衣服を快適に保つための洗たく方法を学習していく。子どもたちが衣生活への関心を高め、日常生活に活用する力や態度を育むために以下の点に留意しながら題材を構成していく。

① 題材の工夫

題材を通して、「自分のお気に入りの服」をテーマに考えていく。子どもにとって一番身近なお気に入りの服やよく着る服を通して、その着方や手入れの仕方を考えていくことで、課題を身近に感じ、自分の日常生活への実践につなげていけるようにしていきたい。また、洗たくの学習の際には、各家庭での洗たくの仕方を聞く活動を入れることで、家庭とのつながりをもたせる。この題材を通して得た知識や技能を日常生活で活かすための具体的な方法を、学級全体で学び合うことで深めていけると考える。

② 展開の工夫

本題材では、課題解決学習の学習過程として、自らの生活の中から、衣生活全体へのかかわり方について主な課題として設定する。そして、快適な着方と手入れの仕方について具体的な課題として設定し、課題を解決するために、着方や手入れの仕方について学級全体で考えていく。そこで考えた方法を計画として、気候や活動、衛生的な着方をワークシート上でシミュレーションしたり、洗たくの実習をしたりして実践をしていく。これらの実践結果を学級全体でふりかえることで、評価・改善を行う。さらに、本時は、これらの評価・改善を踏まえて、主の課題であるこれからの衣生活へのかかわり方について学級全体で学び合うことで、個々に応じたよりよいかかわり方が導き出せるのではないかと考える。

③ 指導の工夫

気持ちよく着る工夫を考える場面や、これからの衣服とのかかわりを考える学級全体の学び合いの場面では、まず、自分にできることは何か考えさせることで様々な考えを引き出し、「広げる」はたらきかけをおこなう。そして、実際の生活場面を想起させ、具体的にどのような場面で実践できるか考えることで、広げた考えから「しぼる」はたらきかけを行っていく。このようなはたらきかけにより、学び合いをより効果的に展開していきたいと考える。

(3) このように、題材のもつ性質と本学級の児童の実態をふまえた上で、快適な衣服の着方の工夫について、以下のような視点で学び合いを展開していく。

第1次では、日常生活におけるこれまでの衣服の着方をふりかえり、衣服の働きについて考えていく。毎日何の疑問ももたずに着ている衣服に着目させ、衣服には運動や作業などの活動をしやすくするなどの生活活動上の働きがあることや、暑さ寒さから身を守ったり、皮膚を清潔に保ったりするなどの保健衛生的な働きがあることに気づかせていきたい。また、具体的な場面を想定しながら自分の課題を考えさせていく。

第2次では、「自分のお気に入りの服をきれいに保つためにはどうすればよいただろう」との問いから、衣服の保管や手入れの中でも、洗たくについて取り上げる。洗たくは、汚れの点検や、布の性質の確認から始まり、洗う、すすぐ、絞る、干すといった基本的な作業から成り立っている。

まず、衣服の汚れ調べる。汚れには、目に見える汚れと、目に見えない汚れがある。目に見える汚れは、子どもたちにも洗たくによってきれいにしたい、しなければという必要感がある。しかし、衛生的な着方を考える際には、目に見える汚ればかりではなく、目に見にくい汗や皮脂などによる汚れに気づき、それを落とす必要があることに気づかせなければならない。そこで、皮脂などのタンパク質に反応するニンヒドリン試薬を用いて、目に見えない汚れを可視化する。学校生活においても、体操服やハンカチなど、使ったにもかかわらず持って帰らなかつたり、洗わずに何度も使ったりする姿が見られる。このように、目に見える汚れについては洗たくの必要感是十分あるものの、目に見えない汚れについては、洗たくの必要感が低い子どもたちに、目に見えない汚れも示すことで、洗たくの必要感を高め、様々な汚れを落とすための洗たくの仕方を学習することへの意欲をもたせたい。

次に、具体的に洗たくの仕方について考えていく。洗たく物を仕分けしている家族の姿や、衣服をクリーニングに出す姿を見ている子どもは、全ての衣服をそのまま洗たく機へ入れてはいけないのではと予想するだろう。そこで、子どもたちに各家庭での聞き取り調査をさせ、洗たく機に入れる前に家族が何をしているか把握させる。汚れ方や布の種類をチェックし、それに応じた洗い方をしなければならないことや、汚れのひどいものについては、あらかじめ手洗いをするなど、その必要性を理解させる。

洗たくの実習では、手洗いの洗たくを取り上げ、自分の靴下を手洗いで洗たくする。汚れのひどい靴下などは、家庭でも洗たく機での洗たく前に手洗いをする場合が多いからである。また、汚れた場所を集中的に洗えるなど、手洗いのよさを押さえながらおこなうことで、場合に応じた洗たく方法を身につけさせたい。さらに、目に見えない汚れについては、洗たく機による洗たくを教師側で行い、洗たくすることで汚れがきちんと落ち、衛生的に着られるということを押さえたい。

本時は、衣服の働きや、洗たくを中心とした手入れの仕方の学習をまとめ、これからの生活にどのように活かしていくか考える場面である。これから、「自分のお気に入りの服」とどのようにかかわってい

くか、これまでの学習で習得した技能や知識を具体的にどのようにいかすか話し合い、各家庭での実践計画を立てる。このとき、自分が日常生活において衣生活に積極的にいかかわることで、家族や家庭生活がどう変化するか考えることで、より家庭での実践に向けて必要感や意欲をもたせていきたい。

3 展開計画（全8時間 本時8／8）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	気持ちよく着る工夫をしよう。	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の働きを考え、気候や活動に応じた着方について考える ・日常生活における衣生活とのかかわりをふりかえりながら、気持ちよく着るための手入れの工夫について話し合う。 ◇気持ちよく着るための手入れの仕方について考え、自分にもできそうなことややってみたいことなど出し合うことができる。
2	気持ちよく着るための洗濯の仕方を考えよう。	3 4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の汚れについて調べる。目に見えない汗などの汚れについては、ニンヒドリン試薬を用いて調べる。 (各家庭で、洗たくの仕方について聞き取り調査をする) ・各家庭での聞き取り調査をもとに、洗たく機へ入れるまでの作業について考える。 ・手洗いの洗たくの計画を立てる。 ・くつ下の洗たくをする。 (洗たく機での洗たくは、教師側で実演し、汚れの落ち方について示す。) ・洗たくの実習をふり返り、洗たくについてまとめる。
3	これからの衣服とのかかわりを考えよう。	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの衣生活とのかかわりをふり返り、今後学習したことを生かしてどのように衣生活とかわっていか話し合う。 ◇自分の日常生活をふりかえりながら、具体的にどのような場面でどのようにこれまでの学習を生かしていくか考えることができる。

4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
1	2	◇気持ちよく着るための手入れや工夫について話し合い、自分にもできることを考える。	気持ちよく着るための工夫や自分にもできることを、具体的に述べることができる。	ワークシート 発表	気持ちよく着るための手入れや工夫について、具体的に挙げるとともに、自分の生活をふりかえりながら、自分にもできることを考えることができる。	気持ちよく着るための手入れや工夫について、自分にもできることを考えることができる。	気持ちよく着る工夫や自分にもできることを見出すことができない。
3	⑧	◇これまでのふり返り、今後の生活にどのようにいかしているか話し合う。	これまでの学習を、洗たく場面を中心に今後の生活にどのようにいかしていくか考えることができる。	ワークシート 発表	自分の衣生活をふり返り、これからの日常生活において、家族や将来のこともふまえて、積極的にかかわろうとする意欲をもち、実践する具体的な場面を想定したかかわり方を考えている。	自分の衣生活をふり返り、学んだことを今後の生活へ活かしていこうと考えている。	今後の生活への生かし方を見出すことができない。

5 本時の学習

(1) ねらい

これまでの学習をふりかえりながら、自分たちの今後の生活にどのように生かしていくか話し合いながら考え、具体的な実践計画を立てることができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1. これまでの学習をふりかえり、日常生活における衣生活にかかわる活動の中で自分にもできるようになったことを考える。</p>	<p>・これまでの学習をふりかえりながら、本題材学習前の自分との比較を通して、これまでの学習をいかしていくことはできないか具体的に考えるきっかけとしたい。</p>
<p>これまでの学習をいかして「自分のお気に入りの服」とのかかわり方を考えよ</p>	
<p>2. これまでの「お気に入りの服」とのかかわり方をふりかえり、洗たくの場面を中心に、これからどのように衣生活とかかわっていくかを考え、実践計画を立てて発表し合う。</p> <p>・自分の好みの服は選ぶけど、洗たくしたり、片づけたりするのは全て家の人がやっていたので、帰ってから、汚れのひどいものを自分で洗ったりする。</p> <p>3. 竹吉家の1日の洗たく物の量や洗たくにかかる時間を提示し、さらに、実践計画を立て直す。</p> <p>・家の方は、1日に家族みんなの服を洗たくしていて大変だということが改めて分かった。自分のものだけと考えていたけど、自分のものをするついでに、家族みんなの汚れのひどいものについても洗っていききたい。</p> <p>4. 本時をふりかえる</p> <p>・少しのことかもしれないけど、衣生活にかかわる仕事の中で、自分にもできることがたくさん見つかった。洗たくの実習もしたので、汚れのひどいものは自分の手で洗ってみたり、いつも家族がしてくれている洗たくした服をタンスにしまったりすることなどを、積極的にやっていきたい。また、自分のだけでなく、家族の服もやっていきたい。</p>	<p>・これまでの『お気に入りの服』とのかかわりをふりかえることで、自分の日常生活の課題を再確認させ、考える内容を洗たくの場面に焦点化させ、これまでの学習を、日常生活のどのような場面にかすことができるか考えることができるようにする。</p> <p>◎教師自身の家庭の1日分の洗たく量や、洗たくにかかる時間を提示することで、洗たくは自分だけでなく、家族とのかかわりがあることに気づかせ、実践計画を改善することができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点 (生活を創意工夫する能力) —</p> <p>これまでの学習を、洗たく場面を中心に今後の生活にどういかしていくか考えることができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価資料 ワークシート、発表】</p> <p>支援</p> <p>これまでの学習の足跡を提示しながら、話し合いの観点を明確にする。また、具体的な生活場面を示しながら、自分の生活をふりかえり、実際にいかしていける場はないか検討する時間を設定する。</p> </div> <p>・これまでの学習過程における思考の変容が分かるようにワークシートを工夫し、評価すると共に、子どもたちがふりかえる手立てとする。</p>